

ブータン王国の食用野生植物の発掘と再評価

信州大学提供
作成日 2016年3月3日
更新日 2016年 月 日



研究者氏名 まつしま けんいち 松島 憲一	所属機関 信州大学 学術研究院 (農学系)	関連キーワード(複数可) 資源植物学、民族植物学、ブータン王国、機能性食品、山菜、地域資源、在来作物、伝統食、食文化、健康効果、遺伝資源、生物多様性
主な研究テーマ ・食用植物資源の探索と評価に関する研究 ・トウガラシの遺伝育種学的研究 ・ソバの遺伝育種学的研究		主な採択課題 ・基盤研究(B)平成20~22年度(配分総額:11,830千円) 課題名「健康機能性を有する食用野生植物資源についてのブータン王国における現地調査」

① 科研費による研究成果

- ・急激な近代化が進むブータン王国において、野生植物の伝統的食用利用の慣習が失われるおそれがあり、食文化と伝統的知識の継承と継続的森林利用等の環境の保全のために現地調査を実施した。
- ・2008年10月に南西、北西部、2009年5月に東、南東部、さらに2010年5月に南・西部において食用野生植物に関する現地調査を実施。
- ・これらの調査の結果、2005年からの先行研究から累計して、種子植物で60科172種、シダ植物で6科18種の野生植物種が食用利用されていることが明らかになった。
- ・これら食用野生植物の中には、健康効果が信じられているものもあったことから、今後の機能性食品としての開発、利用も期待された。
- ・2009年10月15日にはブータン農業省幹部を招いて「信州大学農学部国際セミナー2009『ブータン王国におけるRNR(Renewable Natural Resources)利用にもとづく持続的発展』」を開催。
(<https://karamatsu.shinshu-u.ac.jp/publish/kiyou/lists/046.html>)
- ・各年次の調査結果は信州大学農学部紀要に掲載。
<http://hdl.handle.net/10091/10072>
<http://hdl.handle.net/10091/10084>
<http://hdl.handle.net/10091/13149>
<http://hdl.handle.net/10091/15726>
- ・調査結果は同王国で文化と環境の保全のための活動に利用される。



② 当初予想していなかった意外な展開

- ・ブータン王国での植物資源の調査結果から波及し、日本国内での同様の植物資源調査を地方自治体から依頼されるようになった。これにより長野県南部の大鹿村などで山菜等食用野生植物や在来作物の調査を実施した。
- ・大鹿村での調査の結果、種子植物で40科73種、シダ植物で5科5種の野生植物種が食用利用されている(または、されていた)他、(<http://hdl.handle.net/10091/17021>)、数種の在来作物もみられた。
- ・これら調査結果は地域の商品開発や観光に利用される。



③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

- ・ブータンにおいての野生植物の食用利用は、伝統的な食文化の保全、森林等の生態系、生物多様性の維持管理、地域の経済の活性化に繋がっていた。
- ・これは我が国の中山間地域にも通ずるところがあり、地域資源の利活用により、地域の活性化を支援していきたい。